

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

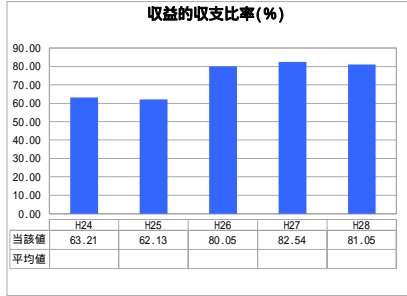
佐賀県 糟野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	24.79	89.33	2,910

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
27,020	126.41	213.75
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,644	2.61	2,545.59

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

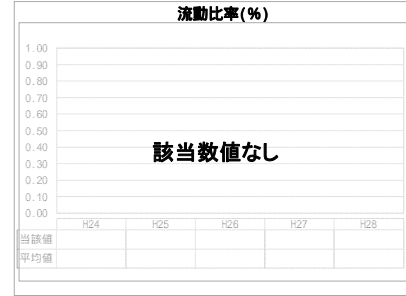
## 1. 経営の健全性・効率性



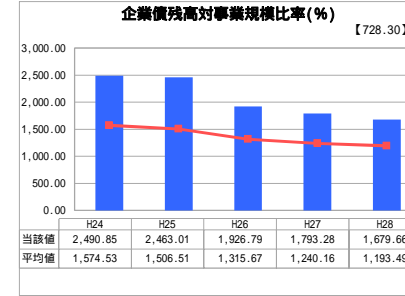
「単年度の収支」



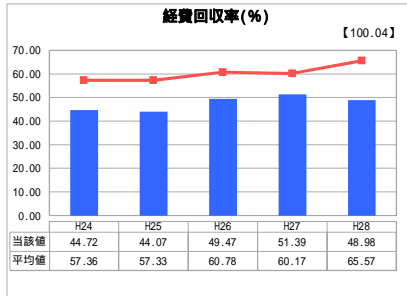
「累積欠損」



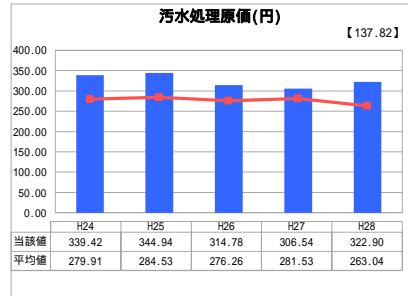
「支払能力」



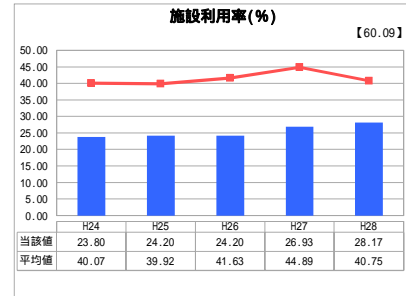
「債務残高」



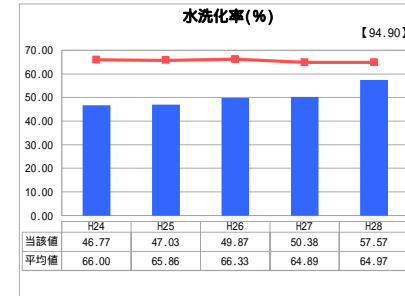
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

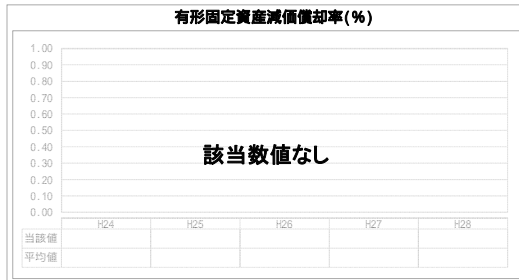


「施設の効率性」

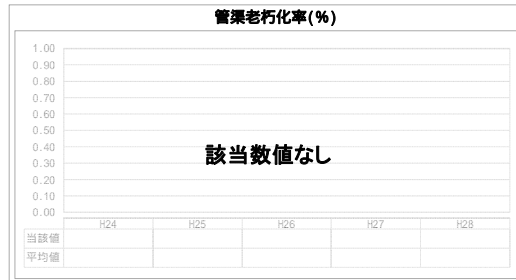


「使用料対象の捕捉」

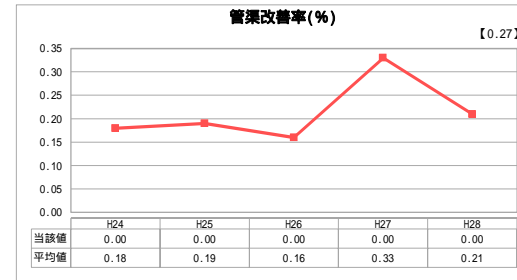
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%未満であり赤字となっている。H28年は前年比-1.49ポイントと微減し、経費回収率は約50%に留まっており、使用料以外の収入（一般会計繰入金）に依存している状況になっている。

企業債残高対事業規模比率は年々減少している。H28年度は平均値と比べると、受益者が分散している地理的要因による建設コスト高の為、高い水準にあるが、さらなる改善を進めていく必要がある。

経費回収率は約50%であるが、半分以上が使用料以外（一般会計繰入金）から賄っているのが現状である。使用料が適切であるか見直す必要がある。

汚水処理原価は、受益者が分散している地理的要因により、平均値より高くなっている。接続率の増加や維持管理費の見直しにより、汚水処理原価を低くしていく必要がある。

施設利用率は、受益者が分散している地理的要因により、平均値を大きく下回っている。処理施設の利用状況や規模を考える必要がある。

水洗化率は整備中の事業であるため、平均値と比べると低い水準となっているが、年々微増している。しかし、大きな変化では無く殆ど横ばいの状態であるため、料金の見直しが無い限り使用料の増加は見込めない。接続率の増加のための取組だけでなく、使用料の見直しも必要である。

### 2. 老朽化の状況について

平成13年より整備を開始しており、管渠等の老朽化はまだ発生していない。

### 全体総括

全体を見ても、問題点は使用料に関するものが多くなっている。使用料を見直すことによって経費回収率の改善させ、また、新規加入者を増やすことで、施設利用率や水洗化率等の改善を行ってきたい。

法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。